

「希望の家」プロジェクト ウガンダ・ムベンデ県にて ～孤児院の建設～

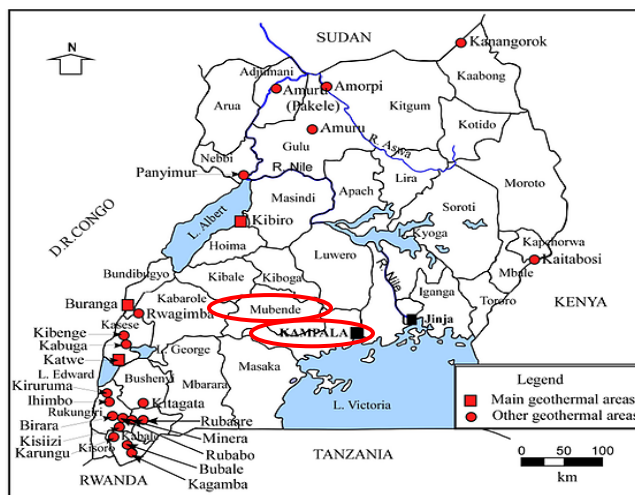


ウガンダ・ムベンデ県において、HIV/AIDS やマラリアなどで両親を亡くした子ども、貧困で子どもを養えない親から育児放棄された子ども、または性産業に従事する女性が捨ててしまう乳児など、保護が必要な孤児が年々増加しているにも関わらず、そのような子ども達への支援が行き届いていないことが深刻な問題となっている。そのため、孤児を保護するための「希望の家」プロジェクトを立案した。

ウガンダは、東部アフリカの一国で、ケニア、南スーダン、コンゴ民主共和国、ルワンダ、タンザニアに隣接している。私たちのプロジェクト事業地であるムベンデ県は、ウガンダの中央に位置し、首都カンパラから 160km の距離にある。（下記の右側の地図の赤い丸を参照）



地図：ウガンダとムベンデ県



育児放棄された子ども/捨て子は、親を病気（HIV/AIDS やマラリア等）で失うことや貧困が主な原因であり、性産業に従事する多くの女性がシングルマザーとなってしまう、子どもを養えないことに起因することが多い。ムベンデ県は隣国のコンゴ民主共和国への中継地であることから高速道路沿いには売春で生計を立てている女性が多く存在し、子どもを出産しても育てる経済力・余裕がない場合が多い。その上、子どもの父親が誰だか分からないケースも多々あり、幼児を道路や教会、モスクなど宗教的な場所に捨ててしまうことがある。また、強姦され、心理的な病を患っている母親から生まれる子ども達もいる。

勿論、生まれた子どもの面倒を母親の親戚がみることもあるが、そのようなケースは稀である。ウガンダは、15 歳以下の人口が全人口の半分を占め、世界で 2 番目に国民の平均年齢が若い国であり、増えゆく子どもたちへの支援が必要とされている。¹

ムベンデ県保護観察官によると、同県において 2016 年に、育児放棄された子ども 12 名（女児 5 名、男児 7 名）、2017 年に 16 名（女児 6 名、男児 10 名）、2018 年 6 月までに 19 名（女児 12 名、男児 7 名）、2018 年 7 月から 2019 年に 28 名（女児 16 名、男児 12 名）が報告された。上記の数字は、政府が把握している件数のみであり、実際に育児放棄された子ども/捨て子の数はもっと多いと考えられる。増加するニーズに支援が間に合っていないという現状を踏まえ、GBN と現地のパートナー団体 SORAK²（2003 年に設立されたウガンダのパートナー NGO）は育児放棄される子どもや道端に捨てられる子どもたちの命を守るため、本問題に取り組むことを決めた。

この育児放棄に関する問題の深刻さと程度を確かめるため、SORAK はチバリンガ準郡、及びムベンデ県にて、県に在籍する経験豊富なコミュニティ開発担当者と協力し調査を実施した。この調査により、以下のような子どもたちの存在が分かった。

<3 人の子どもの事例>

1. Kisakye Mercy さんの事例

生後 1 か月の乳児が、ムベンデ市内にある Kibaati のスラム居住区のホテルの脇に捨てられているのが発見された。13 歳の息子を持つシングルマザーであるケアテーカー（一時的な世話人）が彼を発見し、Kisakye Mercy さんと名付けた。このケアテーカーは、県政府から Kisakye Mercy さんの一時的な親権を受領し、スラム居住区にある 1 部屋を借りて生活している。Kisakye Mercy さんは 4 か月（調査当時）に成長した。

「どうか赤ん坊を育てるのを支援してください。誰かがこの子を連れ去ってしまうのではないかと不安です。」

彼女は子どもが人身売買（いけにえ）・児童労働を目的として誘拐されることを恐れ、早急に乳児を借家から保護し、支援する必要があることを SORAK に訴えた。



SORAK スタッフ、地域ボランティアとケアテーカー、Kisakye Mercy さん

2. Shamim さんの事例

Shamim さんの案件に関して、県役所にて会合が開催された。Shamim さんは 3 歳半（調査当時）の女の子で、精神障害を抱える女性から生まれた。

¹ Children of All Nations, <http://childrenofallnations.com/adoption-programs/africa/uganda-adoption/>

² SORAK ウガンダにおける社会的立場の弱い人々の生活状況の改善に尽力し、持続可能なコミュニティの発展に寄与することを目指している NGO。

ケアテーカーによると、

「ある雨の日、寒い中赤ん坊を抱えている精神疾患を患った女性を見かけました。苦しんでいる赤ん坊を見て、私は母親から保護する必要があると思いました。さらにこの女性は先日もう一人子どもを産みましたが、その子も同様にこの母親から保護し、安全を提供する責任が我々にはあると考えています。」

母親が赤ん坊の世話を行えていないことから、このケアテーカーが村長や家族の合意のもと Shamim ちゃんを引き取るようになった。県政府から赤ん坊の養育許可を得て 3 年間育ててきたが、今後 Shamim ちゃんに教育を受けさせたいと SORAK に援助を求めている。同じ女性から生まれた別の子どもに関しても、育児放棄・虐待の恐れがあるため、安全な場所に保護する必要性をケアテーカーは訴えている。



左：心理社会的障害を抱える女性から生まれた Shamim ちゃん 3 歳半（調査当時）
右：ムベンデ県政府のコミュニティ開発担当者にて開催された子どものニーズアセスメントのミーティングにて、左に写っているのがケアテーカー

3. Miracle Ahimbisibwe さんの事例

3 歳（調査当時）になる男児は、7 ヶ月前に森の中で捨てられていた。彼は村長である Tukahirwa Christopher さんの家に受け入れられたものの、寝室が 2 部屋しかない小さな家で 10 人以上の村長の家族と同居している。村長は地方政府からベットマットレス、ベットシーツ、石鹸等の物資支援を受けたが、これだけでは不十分である。

Tukahirwa Christopher さんは以下のような早急な支援が必要であると述べた。まずは生活必需品が十分供給される必要があること。次に、政府の保護観察官と共に親戚、養育可能な受け入れ家庭を探すこと。さらに孤児施設と連携し、子どもを養育していくこと。現状では、育児放棄された子ども/捨て子を受け入れ育てる家庭が経済的負担を強いられるが、常に物資が不足している世帯で暮らす子どもへ物資支援を行っても、直接対象の子ども（孤児）に支援が届かない現状がある。



ケアテーカーの家族が撮影した写真。子どもは育て親である母親（ケアテーカー）に抱かれ、SORAK、コミュニティボランティア及びコミュニティ開発担当者と共に撮影した。

<現状の問題点・課題>

孤児を生み出す要因の一つに貧困かつ社会的立場の弱い女性の現状がある。特に、10代の母親、シングルマザー、性産業に従事する母親は、パートナー、家族、コミュニティからの援助が得られず、経済的・社会的な生活支援を受ける手段もない。そのため、貧困に苦しむ女性の多くは、子供を養育する余裕がなく、育児を放棄せざるを得ない事が多い。

また、育児放棄された子どもの引き取り先が養育許可を受けた際に、子どもの一時的な親権者となり、地方政府から物資支援（ベッドマットレス、ベッドシーツ、石鹸等）を1度のみ受けることが出来る。しかし、家族の人数が多い家庭では常に生活品が不足しているため、支援物資が他の家族のメンバーに利用されてしまうことが多く、対象の子どもへ直接支援が届かない現状がある。このように、政府からは限られた社会的支援しか受けられないため、育児放棄された子どもの受け入れ先が経済的負担を強いられることになる。子どもに教育を受けさせたくてもその費用等の負担は、子どもの受け入れ家庭が負う必要がある。そのため、長期間子どもを養育することが困難となり、十分な教育機会の提供は非常に難しい状況である。

さらに、ムベンデ県には孤児院が1つしかなく既に満員で、増加するニーズに対応しきれていない。そのため、現地のパートナー団体 SORAK には、育児放棄された子どもや道端に捨てられた子どもたちの保護や教育支援への相談が数多く届いている。

上記の状況・情報を踏まえ、本プロジェクトは孤児に安全な居住場所を提供することを目的とする「希望の家」の設立を提案する。

「希望の家」事業詳細

- **目的：**育児放棄された子ども/捨て子に安全な環境で必要な養育・支援を提供し、健康及び幸福面においても満足のできる生活環境づくりを目的とする孤児院「希望の家」を建設する。
- **対象地域：**ウガンダ共和国ムベンデ県
- **対象者：**乳児期に親に捨てられた、両親を病気で失った、あるいは精神的に障害を抱えている母親から生まれた孤児を受入れ支援する。
- **「希望の家」の運営：**SORAK は本プロジェクトを、Global Bridge Network (GBN)³と連携して実施する。最大で 40 名の子どもを受け入れる。但し、運営が軌道に乗るまでは少人数の受け入れに限定する。ムベンデ政府からの助言に基づきケアマザー1 名が世話できる子どもの数は最大5名とし、40 名の場合は最大で8名のケアマザー（保母・保育士）で管理する。また、8名のうち1名がマネージャーとしてまとめ役となる。

ケアマザーとしては社会福祉、幼児教育に関するスキルや資格、職務経験を持つ女性を採用する。なお、支援対象となる子どもはムベンデ県政府に孤児として正式に登録され、政府関係者に連れて来られた子どものみとする。

³ GBN は、2016 年に日本で登録された NGO で、国境を越え、人と人をつなぐネットワークを提供し、世界の架け橋となることを目指している。

- **「希望の家」の役割：**「希望の家」は、子どもと血縁関係のある親戚、または養育家族が見つかるまで一時的な預かり所として、子どもたちに短期間の保護、並びに安全な生育環境を提供する。できるだけ早い段階で子ども達を血縁関係のある親戚に家族として一緒に育ててもらよう促すことを原則とする。子どもと血縁関係のある親戚、または養育家族が見つからない場合は、最長で 6 年間子どもたちの滞在を認める。5 歳までに受け入れてくれる家族が見つからない、また養子になれなかった成長期の子ども達は、SORAK の運営する **Precious Child Learning** センター（幼児教育センター）に入学させる。卒業後は子ども達が自立し、独立した成人となるために職業訓練の機会を提供する。他団体とのネットワークを活用し、受け入れてくれる家族、もしくは養子として受け入れる家族を見つけることに最善を尽くし、成長した子ども達については他の社会的支援を提供している団体と連携し、継続した支援を実施する。なお、家族との再統合、養育権および養子縁組に関する事項については地方政府と連携する。
- **ゲストルームの併設：**「希望の家」は宿泊施設としてゲストルームを有し、国内外からの訪問者（SORAK のボランティアや学生、SORAK の活動や事業地の視察および支援の参加者等）を対象に様々な人々との交流の場も提供する。ゲストルームの宿泊費は、施設の運営費に充てる。
- **女性の職業訓練センター：**「希望の家」では、食品加工や手工芸品の生産を女性と共に行うことで、貧困で社会的立場の弱い立場の女性たちが、経済的に自立して生活できるスキルを身につける職業訓練所センターとしての活動も実施する。食品加工ではスナック、ドーナツ、ケーキ、パンなどを生産し、付加価値をつける方法や、手工芸品ではアクセサリー、石鹸、キャンドル、クラフトなどを教える。

女性の経済的な自立を促すことで育児放棄の根本的な問題が解決できるだけでなく、「希望の家」で生産した商品の販売を通じて、女性たちが収入向上の機会を得て、さらに施設運営のための収入創出にもなり、経済的に「希望の家」の運営を持続可能にすることを目指す。



焼き菓子の作成を行っているところ。「希望の家」で女性たちは、収入創出の活動を行う。

➤ 実施計画

■プロセス 1：

- 1.1 建物設計への県政府の担当部署⁴による承認の受領（建設計画において県政府からの認可が必須）
- 1.2 建設用資材の調達および建設者の確保、水や電気などの設置
- 1.3 設計図に基づき、建物および部屋の建設（寝室、キッチン、事務所、トイレ・シャワールーム、トレーニングルーム、ゲストルーム等）

⁴ この政府機関が、建物の建設計画に対する承認を行う。

- 1.4 家具、日用品など施設運営のために必要な物資の調達
- 1.5 公式なオープニングセレモニーの開催

■プロセス 2 :

- 2.1 乳児・児童の遊具、学習教材の購入
- 2.2 乳児・児童の健康診断の実施と日用品の提供
- 2.3 ケアマザー、スタッフの雇用

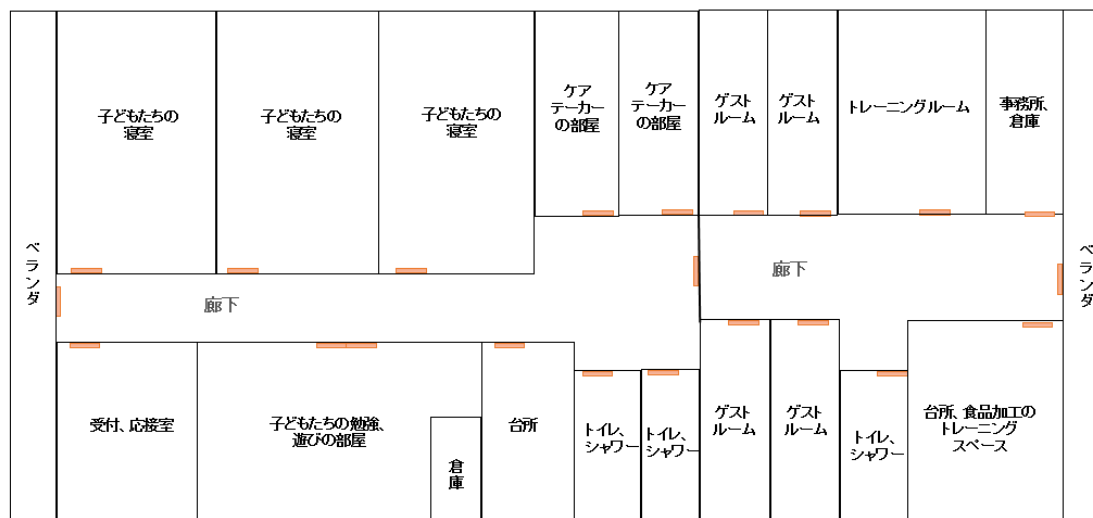
■プロセス 3 :

- 3.1 政府機関とともに、子どもたちの親戚、養父母を探す
- 3.2 2歳以上の子どもたちを対象に幼児教育の実施
- 3.3 施設の運営・経費捻出のための収益活動の実施

➤ 期待される成果

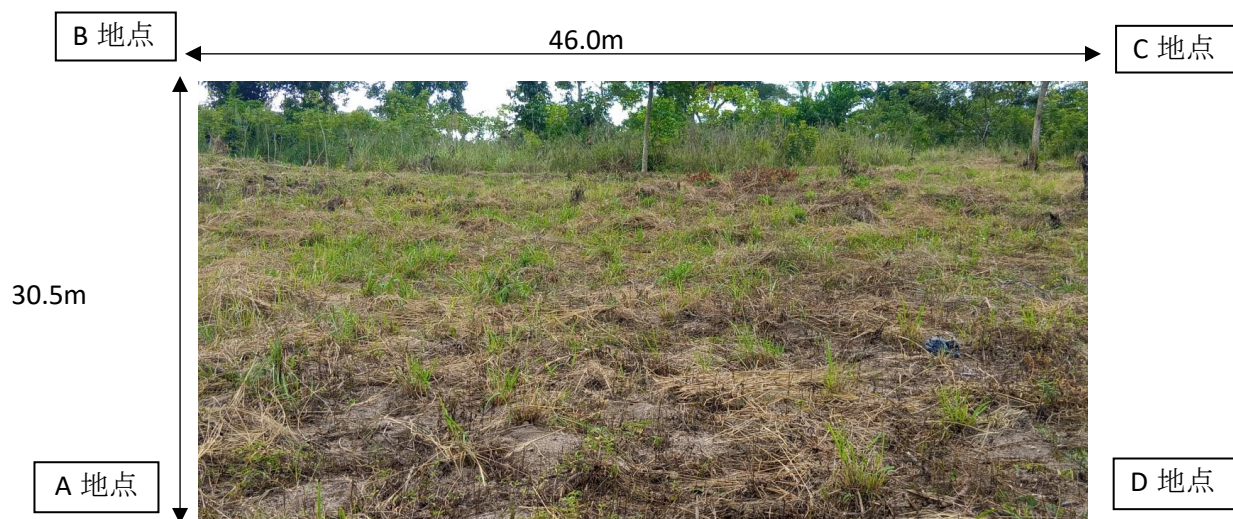
1. ムベンデ県内にて孤児を収容できる孤児施設が運営されれば、県内の育児放棄された子どもを保護、養育でき、さらに周辺地域の養育可能な親戚、並びに養子家族を見つけやすくなる。
2. 十分な保護や教育を受けていない子どもたちへ物理的、社会的、及び心理的な支援の提供と共に、幼児教育と学習能力向上の機会を提供できる。
3. ゲストルームを設けることで、国内外から視察に来る訪問者やインターンを受け入れ、ボランティアなどの活動がしやすくなる。さらに子どもの保護、教育に携わる人材が育成できる。
4. 職業訓練センターの機能を通して、貧困で社会的に弱い立場の女性が経済的に自立して生活できるスキルを身に付け、似通った境遇にある女性たちと支え合いながら共に収益活動を行うことで、貧困からくる育児放棄の根本原因の解決に繋がる。
5. 上記を含む様々な収益活動を通して、採算の取れる運営システムを構築し、持続的に施設を運営することで、増加する孤児の保護を継続して行うことができる。

➤ 「希望の家」の設計図（案）



➤ 建設予定地

- 場所：ムベンデ県 UEB Zone, Church Road- Mulago
- 面積：46m X 30.5m =1,403m²



A 地点⇒B 地点の方向



B 地点⇒C 地点の方向



C 地点⇒D 地点の方向



D 地点⇒A 地点の方向



➤ 施設の運営

SORAK が施設の日々の運営、ケアマザーやスタッフの管理などに責任を持つ。SORAK のサポートのもと、ケアマザーが子どもたちを対象にした幼児教育を実施する。

➤ 施設の安全性の確保

施設の安全性を確保するために、まずは施設を塀で囲う。施設のゲートには警備員を配置し、常に監視する。さらなる予防措置として、施設付近の警察署（交番）と密に連絡を取り合い、日常的に目を配ってもらう。

➤ 事業の持続性の確保

- 1) 政府から物資の支援（ベッドマットレス、石鹸、食糧など）

- 2) 国内外の NGO からの寄附・グラントなどの資金援助、個人からの寄附
- 3) ゲストルームの宿泊費による収入
- 4) 職業訓練に参加者による女性グループを組織し、生産品による販売益を活用
- 5) 施設で消費する食糧は、主に SORAK が所有する同県の農地において生産する

事業実施団体の説明

1. SORAK Development Agency (SORAK) :

SORAK は、2003 年にウガンダで設立された現地 NGO で、国内の社会的立場の弱い人々の生活状況の改善に尽力し、持続可能なコミュニティの発展に寄与することをビジョンとしている。また、SORAK は、保健、水と衛生、教育、環境保全、能力育成、ネットワークの構築、アドボカシー（啓発）、パートナーシップの構築などの課題の解決を通じて人権の擁護、女性、若者、その他の社会的立場の弱い人々の地位向上を目指すことをミッションとして掲げている。

2. Global Bridge Network (GBN) :

Global Bridge Network (GBN)は、2016 年に日本で登録された NPO 法人で、国境を越え、人と人をつなぐネットワークを提供し、世界の架け橋となることを目指している。異文化交流や国際支援プロジェクトなどの活動、またはソーシャルビジネスなどを企画し、異文化理解と相互協力 の場を提供する。援助する側、される側の枠を超えて、お互いの文化を理解し、お互いに助け合うという横と横とのつながりをモットーに Win Win の関係を構築する。GBN はこれまで SORAK と下記の 2 つのプロジェクトを実施した実績を持つ。1) 女の子の教育環境改善「生理で学校に行けなくなる女子学生の教育環境改善事業」（2017～2019 年度）、並びに 2) 環境保全と地域活性化「レモンガラス栽培による環境保全・環境教育および収入向上事業」（2017～2019 年度）である。そして、この度「希望の家」プロジェクトを SORAK と共に立案している。

◆事業の予算

建設費

(円)

1	基礎工事費	414,100
2	建物建設費	1,291,900
3	工事委託費	511,800
4	電気関連部品、窓枠、ドアの鍵、照明器具	68,300
5	配電線	42,700
6	遊具、学習教材	85,400
7	家具（椅子、机、ベッド、棚等）	384,000
8	窓、ドア、ペンキ等	554,800
合計		3,353,000

運営費／年

(円)

1	人件費（ケアマザー、警備員など）	288,000
2	子どもたちの食費、消耗品	600,000
3	子どもの月々の定期検診	30,000
4	上記以外の診察、薬、医療費	80,000
5	女性対象の職業トレーニングの資機材、材料	700,000
合計		1,698,000